源注拾遺

四ノ

源註拾遺巻第三

明石
みをつくし
蓬生
関屋
澪標
蓬生
薄雲
槿
末通女

内閣文庫

明石

一 行くれなゐのもみぢ紅葉をとりてやおくりこしけむ
　その中をとうけくふかまつのねぐやとりのこゑ聞くはけふは

一 京のみやこ

○今宵又月乃面影さみだれ五月雨の心すり
雲ふかき岸の面影ちりかゝる月の光に
飽ぬ葉ぬれ色くれしよりあれ八一首をなげ色八花の
後付ちりかゝる今ふ
くしよりくるんのわ中

一 孟苦也

河窮屈也

一

○今按歴代用ゐし昔ハ用ゐきしに
いとかしこきことなるハ火のゑなり

○今按和名鈔云文字集略云霈大雨也[音沛]日本紀私記云火雨[和名比女]雨水[同上]今按俗云比布留ひふるをふ
いと氷降なり大雨乃はげしくて物にあたる音の
さゝけの様なるをいふなるべし又俗にいへうの降るとやハ
災雹なり麦のわらむしろにくぬくとめするこれ俗霙
鎌をてかりしてんやうかうちおかりとなり大雨をひふる
といふ是をはあらしんひい氷なるを以上数にいふ霰し
俗よひの雨ゝふ体とふいされなり大雨を説て火雨こ
かなる八代ふ体といふ説火降とんゆてこさうしきおみ

一

○今案古今の序云
すみをの中にのなるをはひとりかくれくと
あけなれなり云こ

火なる物しこなりひく段なるにや
ものは霙也なりなるやうにて日もくれぬなり

六帖
ともえなのたそれ時のあかる秋にわりこし去にきやはかひみつ
そこにゆきこみ極にねつともえなのたそれ時にてれなきこしん

一

雨のわし云なり
○今按 衰[シル] 神代紀下

一

なこつまほよせ帰る浪わしき故

○今按餘波となごりとよむなれば浪残なる義し
なごりといふもなれば万葉第七
なごの海乃あさけのなごりけふもかも磯の浦わにみだれてあるらん

一 からもろこしなわたしとこゑをさへつりわへるとも
○今按日本紀云韓婦用韓語言云々 欽明紀

一 そのほとはつるかいとすれくてけしはくくるしき事と
○今按他生の昔思ふる趣し 河原の左大臣乃霊
時々河原院よあそびけるゆへなりとおもひ合すへし

一 月のうちほのゝおほらくらして
○今按六帖第四面影
めくりきてひるまの月とみるゝ身はおもかけにみえてありけるかへるらん

一 ほとゝの外乃たえけるをわすれとそむくめのすへハ
○今按漢書云天予不取反受其咎時至不行反受其
殃このこゝろなり

一 ましなふしはつらくもし
○今按歸去來辭云楽夫天命復奚疑

一 秋のそらにはなるをとさわ
○今案古今よ
秋風よあふたのみこそかなしけれ我身むなしくなりぬと思へば

一 乃ちの季のまよひ作むへきい孫のくまもち
○今按拾遺よ
秋とにゆきつる猶さつみはまとなきみゆてあきさとし給なるを

一

いひしたまと

河ほとりなる花つくもなかえんひしたをたうらふ

○今梅はいまだ開かぬ所もあるなり未詠人

一

わかとんるかのうちはなのわかれ（乃とぬくとすめる春の月

花世界にこれとんるハ海のうへのやうに浦浪寄

乃うちひかる心也哀を催事ひさかたの月夜のうと

おりふしの

細見ハ水の泡なる歌也（ハの字ハ行恒の字イ係

せし時の哀さへのこりうるのしも

時わかとんハ海の泡乃やうに浦浪のうちかる

心なり

一注 昔はなりしとみし月のわかれ（こうる歌

○今集先別恒なりしくんはてんぜし新古

今集雑上の月ぜし後こて我もまた花と雲ぞあや

わの法法掾ぞあるし時都の方より物集る月ぞ花

さしもくてうまなこ雲ぞ花けるふんし月の任とて

乃ぞりてはいまむ雲のまと雲のいちくえ重ぞ和うし

やいとうやけくなりしろくえ中ぞしまわ花

河波門とうまなしいるまとへうし

賀之家集

わかとんるかふわをまうすかとあうこれをうるかな

六帖はかとうるみちふとわの月とえるうこえを

まてねとつかはしたる紙の脇にかくなん
たちを宮家にかくなん申さうとの
今源氏のわかとんるとつかはしたる
波門とそなるを本文よおれし泡のんかす上句を
まことおれ詞をたのわかまさんこと月の屋敷
乃みとふんかの形恒常八和とかりぬまもわすれ
紙をるまくかを紙るまて今のんをを先とかり

一 入道ひしくの法師よ和わて

○今梅兼盛集よひしくのほくし

ものとたをふんをを屋つひきあるをもをる今もれ

一 ふひるのうらを紙るかあるこはしてとわまよ和西

まこ青よ和きてたくに紙たかとうていまあるる

ひ宮中の花をとなるあるとこりふとを紙しに

住吉の神とたのみくあるてい十八年よりかぬ

○今梅和名抄八播磨國明石郡住吉須美與之又同郡よ

菊江布知衣 あり紙脇乃くれをる和よ住吉明神海

茂の紙をとう者ていをるまなん和を我御料のき

まにせんと乃こ陸へ茂江の海よれる加さて方江

ふと名をしるしかはくれ明かはとた住吉

を和あるる

一 たひ衣うかのけはよ

細うかのきハ品をるきこ紙為よんるのこ住吉

如何

今梅うらかすうぐひすうらはしかといふ
うらいはゝ心まかせの若紫なんとなくこゝろをうらはやと
すやとよみ侍りて志賀の浦波へ分入るわゝ山をてん
望表之心を問よまてうくほを裏すり
おもかとうかゝ宗しろ

一　今梅若紫第一　人丸

あるの御よ物語すんなりの丹波の尼乃

一　いひうくこと

一　除院御制衣

いひうくもはゝさうぬ人のいひうくこと不ものなりもうれるか

○今梅まゝさうぬ人ようさ所八代集ハ八人てしたの後
乃集かたにあるうくくしハ人のいひうくこ

一　おりふしさらさんはかりしさ

細おりふしらいさみ小ゆ山ひ世人位のをこ志ひむ言ひ葉

○今梅世かゝ若紫ようるゆく又万葉の分乃
休よあ人勅撰のお夫本抄名寄抜ハ人て花河り

あ歌所より

一　妹の東乃つきけの約よりこふろくをわよかを対のまも見

○今梅万二

春駒のあゝきとゝやゝ云井ハを妹ハあるハ之てきふ考

同七

[illegible]

一

[illegible]

○今梅若葉第十二よ

いそのゝ[illegible]

[illegible]

一

[illegible]

○今

[illegible]

[illegible]

一

けふ拙なりしもし人よりも

細草子地也明石の上をも今ちと物のかたしも

[illegible]

孟[illegible]

乃河なり

○今梅細流いけふを活てをゝ[illegible]孟津の[illegible]よ

分色〳〵又明石の上より今ちとふやをわるも無[illegible]色

〳〵人〳〵世の人よりけく[illegible]

一 済祢云いとけしき夜のふかくもなく明ゆかうらす
◯今按遊仙窟云昔日雙眠恒嫌短夜
万四
けしのやく聖ハ十人とあき旅の百夜がねむつるとも
ちかひしおとこもなしかりく
一 細わすましとちかひしとがわやすくハみさ石山の神もしらす
◯今按此ハ家持が出るおかしける萬葉集第四
たかいぬがおすふてうしはなくのみこころきれ毎乃神し志るらむ
けふがさりて末乃人のしめしるか伊勢家集よひ之れ
おもちかさし神したてしおりけ
おふとくもなのむかしともわやますハ人のしかくともわすれしとぞ見

けふ胸句がいとゆくされの在にたがしちかひしとも
かそりなり
一云 しうあくもたなひける
◯今按うらめしくハ云そ何れも物とハ萬葉第
十二
済みのひよ岩のうらなわくあり尽ひともろる
うめなるく宗し君ゆゑわされぬくむとなくを予とゆ
同第十三長哥
いさなりあめのし遠ようしかれくやもれんしわろ人ハここ
同第十四
うしあく我ゆくなきよる柳のそうてたてれし相ゆかひつとも

いそほのやをしまの松かきうしやあらぬうらかぜふく

同年二十

わがせをよいとなくとひとをきてうらさらとふる月をみるぬ

なきてふくことのねをしうえをくいうこゑのかなしさ

一 月もさすちぬ

花六月

○今桜上ゑ六月をんなかうき事ありて

なやらうしわまはしたまへ七月の雪

一 心とはるをあらはなのふかはるしたへつるふうれ

よのとめるはたとへんうれし

○今案後撰集よ夏の夜ふやぬ琴ひくと寄て

一 みてゝ夜の姫ゆくまにたゝ物の音の松風吹ゝとをきく

なをひむせひをもしをもも

○今桜茶紫第四ゑ

白妙の袖をゝ紅き日ぬらんよむせひ物のこゝ

一 みをゝつわまゝうけ

○今案日本紀第五垂仁紀云田道間守至自常世

國則賣物也非時香菓八竿八縵焉　延喜式云橘子二十四

蔭　これハ蔭の字なをけを濁ろ紀あまゝうけい枝

落花こゝかゝるに荷をきて指ゝてにをふを一無と

いふ色しさやうゝうよめくといひをへを

一 才子ゝるにわかめまて月夜よあ毒紀乃上ゝるものハ

ものこのまふれうよりなる

○今梅行道すはらしいろをうをハ海ノ〳〵ゝ寫し
たり〳〵ゝるの絵しいりし前後ふゝみしえのハなてい
をはるゝ紙ゆゝよ細流又物の字ゝ其ゝ多ゝ紙を
すハこと泊したゝ〳〵ゝも髣髴なり
いとめるゝをたるもゝ
なにもしもしもゝ海きれ家る

○今案行取扱流よ車よりて百人ゝ天人ゝ
乃ゝ想ゝ後おきれおしる無のみゝ絵なゝてすと
海ゝうひすめのゝ行おきしゝをゝみてはせゝれと
何せしよう命をしゝたゝめよう行すもゝ

なゝ中て葉もくゝ紙なゝて乾もわゝてやゝふゝり
ゝゝつゝよゝるすえて始ゝ

海底（ワタツミ）喜撰式万二　第十よ見ゝふゝしゝる〳〵ゝ宝ゝ

○今梅海底をわゝつゝと長しゝゝハ方葉第一なり
牧あり又第七よハゝゝ
ゝゝつゝゝ点ゝゝ并よ喜撰式ゝつゝの宝ハ海ゝゝ底ハ
第七よ綿之底奥已真舟ゝゝ海之底奥津白玉ゝゝ
海ゝゝゝゝゝゝに之の字ゝ〳〵ゝ紙ゝ又第
一乃哥ハ海底奥津白浪立田山ゝつゝ右第七よハ海底
奥玉藻ゝたゝよおきゝ海ゝゝゝ第七よかゝふゝて
のゝこゝ海ゝゝのゝえのゝゝかゝゝハ之の字ゝ〳〵ゝ流ゝ

一

毎定てきたれてこしよりみくまくまいしとはいとむ屋うら香
きるくうくまいは於君意之奈要浦鱗と手り第二よ
人麻呂の哥よ萱草思志莽而といるしるくこれは萱
草のつきはよめうてきはるくよたくていうきはくく
之れ字に毎なゆるうきるえくまは假名たるうら
ゆまいは方葉よいみる假字よてかりり楚辭よ恍こは
うらゆるこ点とり異なよしつこうくまといるゆ哥院
の訴點放物くは清とするよたくはは哥集の何よて五葉
よなれつきるまいきるくうくまよ分為し
おけきつ明石の浦よ胡哥のうやと人をおひやうれ
○今按綱流よりまてる哥集の哥おりきよ

一

わまゆるよ姉すけくらしかさくもの浦のおきはよきうたひり
奥津風うくゆせたるはきれきうにわう浦しまのと
此哥方に毎こは屋しなけおい長息とつめる羽
るまは胡哥はるけきのきうにて長き息はるかまる
乃しくるう城ふなるうれつわうはの息胡うの
方のくくやわうと四ひひうるうくゆゆ
哥るう又万紫爭五ゆ
大師山まりこうくうくおきれの風よきうこうる
わひるく人まこはるの却ひきめるんはしてはく
なれつくせてはしおうを弟り
○今按和名云蟻螻工七結反下七孔反漢語抄云加豆子無之日本紀私記曰末久奈木　小虫亂

飛也磑則天風脊則天雨日本紀第十三允恭紀云初皇后
忍坂大中姫 隨母在家獨遊苑中時鬪鷄國造從傍径行之乘馬
而莅籬謂皇后嘲之曰能作園乎汝者也 汝此云那 皇后曰
厭乞戸母其蘭一莖 厭乞戸云果提云覩自 皇后則採一根蘭
與於乘馬者因以問曰何用求蘭邪乘馬者對曰行山
撥蟻 蟻此云摩愚那岐 今おもふよこの日本紀乃自注のかぶ
まとはくるをいくと濁りもきれ清へきをいとること
小豆の汁をもりのしつて使よりひめくめてをもり
をもをもをしおもをれいへりやしるしるを河之源治秘決
ふくり

一 ゑつくし
わしいをくる
○今按日本紀ニ篤癃篤疾ト注シテ五音通セ
ルイハツヘシ病ノヤマヒヲワツラフナリ
一 人の御ことあさへ
○今按後撰ニ
我ヲウ紀世の中とふけまつ人のあるかすくうえ
一 内大臣よりの給ひぬ
左右の大臣兩ヲキこ内大臣ハ今外の官にて官位
今よりのせるる友之大織冠の時ハ内大臣と左右の大臣乃
上ようも乗ても

今按日本紀第二十五孝德紀云天豐財重日足姫天
皇四年六月庚戌云云由是軽皇子不得固辭外壇即祚
云云以阿倍内麻呂臣為左大臣蘇我倉山田石川麻呂臣
為右大臣以大錦冠授中臣鎌足連為内臣增封若干戸云云
中臣鎌子連懷至忠之誠據宰臣之勢處官司之上故進退
置計從事云云辛亥以金策賜阿倍倉梯麻呂大臣與蘇
我山田石川麻呂大臣　同二十七天智紀曰八年冬十月
丙午朔乙卯天皇幸藤原内大臣家親問所患云云庚申
天皇遣東宮天皇弟於藤原内大臣家授大織冠與大臣
位仍賜姓為藤原氏自是後通曰藤原大臣辛酉藤原内
大臣薨云云甲子天皇幸藤原内大臣家命大錦上蘇我

赤兄臣奉宣恩詔仍賜金香鑪　其れ[illegible]
内臣より任じ[illegible]ふ左右の大臣より次て該司百官の上より在て忠
正の故より進退をつゝしめ[illegible]る天智天皇七年冬月
五日蒲生野より[illegible]ひ[illegible]る御供をい[illegible]て内官及群臣
こゝ[illegible]八年十月十五日より初りて内大臣誠授事為[illegible]るを以而
より内大臣とわ[illegible]ハ内臣とわ[illegible]ると後人大の字をみ[illegible]
小かへ[illegible]ハ左右大臣の上に内大臣をおれると云ハ
[illegible]通曰大臣とハ内大臣をれと称左右大臣より多
ひて内大臣といふへ[illegible]
この心なり
一
[illegible]

○今按 資（ヨスカ） 日本紀 因（同） 同

一 うちつゆのとれを
○今按 乳汁をうちつけよとてう

一 山寺のいりあひのこゑくよとてゝも
○今按 朗詠
山寺のいりあひのこゑとゝもに夢ふ人をあとしゆとてうしく

蓬生

一 はちうゑたまふ花をもわしのせちにはハ
○今按
うれさ成行よつまんくよ紅をあすはやさふ花といはゞ
空色し成むしの神よりこそ少もあはれなる

一 めとゝ人をいふ詞をいわ新かのを
○今按 既切（とうつる） 日本紀 頻絶（同） 同上

一 さうゝものえうして
花用うり
○今按要の字うる想（假名を要ハえゝ用ハうり
ゝて実うり

一　行きらうめうの垣

○今按築墻とついひちゝ又ついゐとあり今れ世上
みてはきたるハはゐひちゝ本行りてしるハかきと思ひて
かゝしいたゝ墻も垣りゐ紙ゐ多ゐ古よ者くゝひてゝく
まてゝ紙ゐ玉とゐ字ゐしてゝ本行ゐてゝ主紙ゐてかゝ
ゐたし本行なゝをたゝ紙ゐ紙ゐ紙ゐ
ゐゐ限とゐゐゐうゐハし

一　かゝゐ

唐守

○今按伊勢集よかゝゐりゐ道ゐゐひて物ゐ紙ゐ
ハゐゐゐ道ゐ沙ゐ物ゐ本ゐ物ゐ物ゐ物ゐ

うつゐ物ゐ物ゐ物ゐ上
かゝりゐゐやゐゐゐゐ物ゐ物ゐ物ゐ物ゐ物ゐ物ゐ物ゐ

一　さやゐのゐゐ物ゐ物ゐ物ゐ物ゐ

○今按　心鈍（すゝ）坊藻

一　くゝやゐめの物ゐ

○今按行取物ゐ物ゐの物ゐ物ゐ

一　ゐゐくゝのゐゐくゝゐゐ物ゐ

河弊（ゐゐル）

○今案弊の字はゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐはゐゐゐ弄の字ゐ紙日本紀ゐゐゐゐゐゐ
ゐてゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

一

わらはとゐへしはさくらんぼうおれし
今のよ九人今をめる殺らるゝ
いとこ九人殺て又まする人のまけまとそ
うらを殺らん

○今按時時日記ふとくしれる殺ひてほうひ
まつ人をあひとおこるふまに源をわるくこゝ
わるれいと劣るい女もをこふけきまひきをけぬ
かをきこうし対わまくうるほうるるものを
みはわるてふあてをを紀しんいろゆさ多三
第弐部日記云あてゝ女らまもまをいまむをうい
きやうもむをたに人いをうしきをこをいろ

一

きこ殺ゝ知ゝ人の刑来いろちなゝはめは
らるてぬたをしなゝいをほゝくを生をおゝ
なれやゝかゝしいたゝをあゝまはのゝ人ふを
てををくゝるのゝいつをくをゝ人のまをゝこれを
まに知ゝをひきゝかをこをゝいゝふゝひて
らゝまのおゝたゝをゝいつをゝこゝをゝ

一

ゝしきゝゝ人をもけふゝらぬ

○今按侍従をもをふてゝ九をまの人今をゝ
ゝ人おゝ来ふひ殺いゝ人
抑若をくゝたゝものゝ人のゝ殺ゝひのゝ元ゝ生ゝ殺ゝふゝ
ひゝ川辛いゝたゝ若来乃ゝ殺ふ来ふたゝ人ゝ

一
○今按河海にしるさる哥は萬葉第八に志貴皇子懽御歌一首とて載する所なれはさうしようかな
へる草木ことゝいふてすへておほしいる世のかくいふ哉
事わりなかる故春にけしかいふこと（はかり）そて
あやまりなり

一
たひしらかりしまて
○今按元輔家集にはくしみてしるふのことの出まに
ほひすたてはつりおけらりしに
みくまんおのひらりそそのむゝるかとなわりぬたひかりしそ
むかしなてもやはしかりのそらの雲の花えうけてちりしむ

一
○今按伊勢家集に詞へゆく人ならむとやはとて
けつりなしにも尤くもかるゝ雲の所にかゝるそうれしき

一
いのちしそあり侍りね
○今按古今に
命しにふかくかなふのの すはすゝえてあらぬいまゝんて
命わしいかしいふ哥を好く光孝後拾遺雅に加ら
りんとひく道命法師のおかしにまうてきたる人のよみ
侍りける
たえやとも命をあらぬみかせりけしなられてもこう後よきを
みん人しれ

一
まくのはひこへは侍かとゆへさせに
○今案古今集俳諧の詞にすしれ侍ひしこと是ろ
しかはしわき給うけく此集ハ右はそのしをくそする哉

かすみてゆく春の夜の月をみるかな

一 たゝしの白山たのしやら新宮れうらよ

○今按古今

ゆくえなき月の中しるべをたづねてもあとなかりけるかな

君なのみ思ひ出ちの花ぶさいつゝ分ゆくのきの時雨

よるほとゝぎすなきしのすとわれをとゝいをたのもしかれ

ばかりなり

一 外月くらに出ちる里をおもひいでゆえたゝしひとり

かこちのあすうゝ出てたゝしかなる

○今按新古今集

俊成

あはれくもたちこめよ春の夜の月

俊成は源氏をよめる歌に引用せ八紀数里八末の奇よ

ゝ抜き揚ゆ也ハこの上句ゝ九河ゝ引用ゝ九ゝ

一 ゝ本ゝ引ゝ引ゝ引ゝ引ゝ引ゝ引ゝ引ゝ引ゝ引ゝ引ゝ引ゝ

○今按万葉

あさ霧くもうみるやなれ雲れぬきゝ立ゝ

一 おほきみの松ゝ夜の明ゝ月ゝ

つゝてさゝにゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

たゝゝれゝハかゝりてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

○今按定家卿家集春夜樹

はるのよのあすの梅を吹ゝ風の立ゝ

世ゝ古ゝのんゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一すべてぬしのしるさに

一いひしふたふつを

いそをはなれとしをへたるものつくる

○今按此所何よりあるべしん

一むし塔なりこれはこれ人のをくるおほしわいを

数よれ物さはふてうしぬのふるをわれるり

細古今釋一同顔叔子事云云定家卿おもふ塔さいを

ちうとあると或又堂とかきそえおもあり

早竟實法ある人のあるり

○今按顔叔子ハ名事をあきらかにせしうへ人ハ周屋

うしに昔物語ハ親の切徒のあるふ立てる塔あるひハ堂

一

ぬをの子不者すてこのちうしかりの物語ハ

ゆうれを思ひ合されし又常陸宮のおちをせ給へるを

をあなたをして東橋記の所にまゐるを参詣ある堂

わるれよりてまゐる細流と早竟実法なる人の

なりとあるをむしやのかりしふりあるれるを

ふりてよりて東橋記乃事をは竹姫屋し

うこのちを数人をもあるをいふりてのをなる

すはけたりをふうを屋てをとれをあるれるをこは

むるあるり塔の俗名ハ堂ハ堂構とふとあり

どうおかうかくれよりあり

○今按花散里をもめうつしたるかぬをるふりて

未摘花の方のこゝろぬ事とこゝろおぼえ侍れてかく
ゝ事ゝ

一 ちりぬるこゝろのかとしるすべ

○今按

閑屋

一 昔よりはをゝしいとこゝろかゝれを侍ひこゝ
一説いとをゝしいとこゝろかゝれを侍ひこゝ
昔よりかゝぬ事なれ
をゝやし空蟬いとこゝ云云

○今按此一説ひるゝ用色ゝ侍ふ少はふむ
なり旬ゝて切ゝ侍れ切ゝ侍れ切ゝ侍ふ
ゝ侍ゝ侍ゝ侍ゝ侍ゝ侍ゝ侍ゝ侍ゝ侍ゝ
教忠卿自筆お送するふあしやそ又侍ひ
此とゝ侍ゝ侍ゝ侍ゝ侍ゝ侍ゝ侍ゝ侍ゝ侍ゝ
ゝ侍ゝ侍ゝ侍ゝ侍ゝ侍ゝ侍ゝ侍ゝ侍ゝ

[illegible]

繒谷

一 さしぬのをこれをいふなり

細 さしぬのは組の櫛歟

抄 綾の字をよめる組なる歟又会編

乃ちぬをこれをいふ和名抄に組をもちて

正とすべしと云

○今按和名鈔第十四容飾具云唐韻云 音蹂一訓 人り 都留

細櫛也枇 毗思反和名 保曽岐久之 百刺櫛 仮之 久之 同巻服玩具云禮記

註云綬 音受和名久之 所以貫珮玉相受承也又用組字 音祖

は字何ようにかをくみをこれをいふ

ぬをこれをいふ実説を思ふに拾遺集雑上に

[illegible]

はりなる人のすがたをよめること結びてなるよしをいはしす
ゆえなり

ふくろぬらうむすびてなるものの神をまつりなる
ゆえとしるのみなり結びて袋小なりとなすは分乃二
句なるべきをいふなり袋をたゝへあるとなるやう
にむすびなるを結袋といひくくれるぬさを入てはけ
二三八その袋よりなりてしまくゝ句中のぬさをいふ
第記物語はこひしらひなの金てつ
さらに梅の枝なりあり八薫物の箱乃上小梅のつ
ゆ花をさしたるなるといふなれはし
なりなるといふなるのわきまへなり今ら乃ゆゑなに

くまれなるみよあるぬしとなるれなり又この
よ明りてえむよりを記なるちんのなこふおれきんと
のさはいといまあることいへるを況の箱よ流の乃ゆゑ
を記なるのなをこの乃ゆゑなるすなはちきこふなる
すまはすはおれふとふ詞なるてあり也ゆゑに
能宣の哥八ぬさ城結小まてなれよりなるをを
しぬさと結とのおふいなりや

一

こしらうらかあたはう
細時なりなるはるくこと
孟時（しなり）日本記

○今案日本紀よりはるとふ詞なる後拾遺雜二

門をおそくあくこそ侍ふ者人の名をよつらねる

和泉式部

なりぬとて月をいとあはれ人秋の夜はてゝまれのこはるをふ
奇まる夫はかりはれらめ思ひつゝ人のこゝろをたふ
ふい侯名すてゝ出れるおもひ
ゆゑ秋をてゝろにいひ

一　今梅ひとをてゝ帰るふ部ゆゑ拾遺恋四

道命法師

あひ見しゆゑはきゝるとこゝろかゝりてあはいまたるすき
ひかりをてゝまれば
一　恋のうらはむしゝぬ死て神代のことを高き

○今梅續千載集秋上　よみ人しらず

選子内親王

恋

恋ゆゑのもしの白ひをもとしの
神代乃しらをも業平の神代のもたりひ初雲
をいふ秋をいふ月を歌色
一　たかはをひとりあるしてふ
細左方一番の勝しるり今一番ゆゑ時次子の
續いてきこゝろ
○今梅光ゆゑ幾番もありて侍くこゝてゝ乃一
侍ひひとりゝ対ゆ須磨の巻初年ゆとふ

一 [illegible]

○今梅を見わのことをきてろやふ何
ふもたらぬうらなりの元結紙日記すとおぼし
一 いのこの中よりわれ人のわあぬる人の行すをもぬを
えらとろうてゐる
○今梅日記紙よ良家よし書くう陶ものこと
ゐり播紳とうまをくいやうる家なをいへ
のこいをえをとりて梅羊ゐ人のいろひ学ひく
ゐる道しるり

一 いろいのすみうれのよてをとわしなくらうすつうり
ゐる
○今梅晦跡ごる寄よゆきくばと後ることれふを
なをいふいへのよりをうを今源氏の元とよ紙ふ形
をして卸紙をうんていて和て行方すをゆさくれ
るはしこれまりよはもりふり

一

かのことはくれのけふかうけくことはのふとあるまて

○今梅くさかけくことはのあるへくあたらふひさしを

つくはくさ彼殿の徒花ふ新をいておりふとあり

てこそ思ふとひくのふこ

一

はかしにくきうは

○今梅萬葉第十七家持長哥まつすごろひこ

乃はるてといつはけるふ魚をその奥にくけ小人も

新ものふくうれやうしたらにくきはとふ春花

小時の字はつるもしらすことをさはしはまの

ふことをみえうる歌

一

くるくとうちあうらうきいて

○今梅栗坡を虎をうらうとを新者を蜂をあくと

うう蜂の身を近つく時をうを梅花抽ふおるる流ふ

鶯はなくのわくこいあくはまを冬をけるも

おのうものやうふなもしいはまを沙よ俳句をうつる

陸とふはをを思くまよかるはくきうにいるをき

らふをふを蜂ふくこをいて時花を腰立の伴をと

ふをたうるとを鶯をはうしてるふ春はまは

き理く

一

たわしるはのくこふをのふをく

○今梅拾遺集賀よ　源順

[illegible]

一　又ハえしらかてしらとも[illegible]

ゝらなり

○今梅よすがの波上のかへ〳〵と下の神ぬきらなり

よかゝれも

一　天ようはゝ人の

○今梅河流よ天上欲退時の文いとゝ[illegible]

ひふくりよりなるりとゝ[illegible]

[illegible]人天を乃ゝ[illegible]の心すてゝ忘ハ世[illegible]

[illegible]

ひとりの天人のとゝ乃昇況ゝて[illegible]

明ゝよりはゝ人とゝ[illegible]

ひとゝいゝ[illegible]天上[illegible]

ひよなすゝてしゝ[illegible]

一　いくか[illegible]

○今集

わはのゝ[illegible]

一　かゝ[illegible]

河海引歌

人ゝ[illegible]

今集[illegible]

[illegible]

此哥まていひ〳〵給ふる也し

一 汲くれなる水のおもかけかなはしうき也

○今按續後撰集雑一云 東北院の渡殿のやりみつに

影をみてよみ侍りける　紫式部

かけみてもうきわか泪おちそひてかことかましきたきのおとかな

一 いさら井ははやくのことも

○今按日本紀に滄水といさらみつとよめり又六帖に

我やとのいさら小川のますみてておもふ君ひとつとも

滄はわつかなることによみて後纔になりて見はし

わつか水なり絶まはすし水は清水にはあらて堀水なり

よりて殊よまれてそおもふとつゝけるらむ絶まいさら井も

滄井にてかやうは水のすくれたる所なれは心にては侍る

おかしきことをいふなるへし

一 めくらしあはさらは

○今按本朝文粋第十三に慶滋保胤の書たる勧学

院佛名廻文一篇ありめくらし諸人に書まはし

二世善根をともにせよとなるへし

一 里遠しやかて乃こえしへて

花里をみいふせしとかくれぬる名は花にみやこを思ひなりにし

○今按此川も何にみえたるか知らす又万葉第十に

ほとゝきすこよりはるかにみやこのそらは遠くなりけり

人丸の集乃前之同巻にこれに似ておなし句あれは出しもせす

一　木下月ひかりまてるかくれかな

○今案遊仙窟云擧頭門中忽見十娘半面

小町家集

たちけるにはかくれぬるとそやそとかくれるけさはあらしは

一　やへくれ山ハ

○今案

百首のうちにはつゆくさ雲のやへくれやまは

一　光りてはいるかくれはやけはやはやはらの海のあとにはつ

今梅恵慶法師の集よりて月わりき和

ひさうにはてはかくれのふかくれ雲ふかやまとて

如覺法師

薄雲

一　わかの浦にてもかくれてもたゆたふこと

○今梅

蟬丸

あれはやはてもかくれてもたゆたふこと

一　又のはるるらてうしろめたくやとけてみられて

○今梅萬葉第十一

たちはのくるはるかくるはるかくるはるかくるはるかくるふ

一　わはをれ

○今梅喜撰式の長哥ふ

あまひの見のたなすれひきしなへるもつきそりけ

りけさそひてはくたりへふ

○今按万葉集第十六竹取翁并に
みとりこのわかごかみにはたらちしのはゝにうたかれ
すきかくるはふこかみにはゆふかたきぬひつらにぬひき云々
枕草子云あまそきなるちこのめにかみのおほへるは
かきはやらてうちかたふきて物なと見たるもいとうつくし
なにもなにもちひさきものはみなうつくしけなるもみな
うつくし又云いみしうしろく肥たるちこのふたつはかりなる
かうつくしきかふたあゐのうすものなときぬ
なかくてたすきむすひたるかはひいてたるもいとうつくし

一 うらくうするなる
○今按 遅（ウラ）ゝ 万葉点

一 いさしめのすそにすかりて
○今案神代紀巻下云則攀持衣帯不可排離

一 わたりこし
河梯人を川
或注 梯人ハ死人といふよしうつくし彼人をいふへし
○今案さくら人ハ地の名ふにしく人といふよし 和名
鈔云尾張國愛知郡作良郷これあり 万葉第三ニ

高市黒人

桜田へたつなきわたるあゆちかたしほひにけらし鶴なきわたる
このさくら田ハ梯人ゟ渡津田域こはちつきろしいへるに
わたり斯色し作良郷ハ海近ふてかみまへよし海ありて

うたは四あり後撰津四しゐふ重之集ゟ

おとろかれてつゆをはらふやつこよかまのこゑ

このあくひろう舟ゝ舟うこめいたの○ろめよゝ

おとゝとゝをわすとゝもいくあいゝゝたにてわをとゝいくあゝ

古事記ゟ仁徳天皇の御哥ゟ

やさのすゝ葉にうゝたゝらわをるんわゝ

葉原ゝゝ波ゝゝを葉原いゝあわゝゝとゝう

日本紀ゟ本朝軽太子御哥ゟ

おほきみをまふゝろ布(夫)雖わまゝいゝ(鍼)ゝゝん

ゝたくみゆわゝゝ波ゝゝうゝゝみといくあゝうゝを

ゆめ

一

ゝまてのゝゝ波ゝゝたるゝつゝゝるゝゝこゝわゝ

ゝ八四頭の字なゝゝ書世れゝかゝゝてゝゝ

わゝ波ゝあ又(雄)馬集のゝゝゝゝゆゝ波ゝゝゝゝ

へ波ゝゝゝゝ波ゝゝ八実不来ゝて四ゝをゝ四ゝと

かりゝゝはゝゝをわすか(つゝ)ゝゝいくあゝ四波

ゝんてゝんゝりゝいこゝゝゝゝゝあゝ四波

わ波せゝれゝわゝを四ゝをゝはゝのかゝゝ波

次の弁乃わをゝゝ波ゝゝゝゝゝゝゝ細流ゝ

ゝてゝゝ八かゝゝ

中くふゝゝゝゝ八九ゝくゝゝ

○今梅ひゝゝゝくゝゝ

つゆすらしぬこゝろとなりに堂をあらく人のなとおもひやし給ふに

此哥なり隔心なりけりとかやいふなりと

一 是にていとしうこひしうおもふへきけにしは

○今按拾遺集に　忠岑

春きなはかりにて花さかりにこそかけさく人はおもはれ

一 らくしけすゝちりはくてめたさしひつく

○今按くとめし同類にて通するに六合の字をとくむ

ゝくもめくむらもよむなり育の字はとくてむともよむ

こゝろハ合にて多のゝまを郎のおにくむてかへとよわお

き執詞なり

一 身にしみてのおもはえまうき海されてゝハけてもこそ

昼なかのとおしおほせ

○今按明ぬ上の人々といふにこれからもうかへしこよひハかと

いふより待ひまうりゆくといふさしてよはくせうよあけ

乃おもえよかきはきうとハおほしきの容顔しらの人

のむすめすしハ容體なしにもろくたち○ハかくれたなひ

するらん○やハなおはめのめへきこしはおもひるにへきは

これハ親の入道しとむかしのつたえあき大臣の孫

なかきも姓はさてえありめへきほとしおほし給へに

こゝろなり細流晴花抄の説をかすふ抽しとありへに

一 ゆめのまうり乃うきことしつ

世の中ハ夢のよかれかうき橋かうちわたしつゝ物をこそ思へ

○今梅世奇おもしろう古帖をたにみえし
世のこゝろ百ぢうの世の中さうしくく
○今梅作塾家集と世のさハりにしろ
けるこゝろのれよりなきて時のうみさうそのうへうらせ
六帖をたゞ奇かるひとゝきう
人やうこてこゝくしうおもろ
○今梅菅家おもかるようたてにわひの神よとゝまる
少しいふ奇のうたて故別様ごうせ法へつと　古事記雄畧
天皇の世の事をもゝをるこゝろと市邉押歯皇子
物のこゝろ百ぢうの舎人ことうそのうみとゝ
うこてこゝおもし

一

さうろうむせひ待つて
○今梅おもかるて
おもろうの能とうきゆ成らうみうふしすひ物のうこゆ

一

奇をかくれしこゝろやすこゝしう
細いおもしの前物をいこゝしくうをいい神をつゆ中うりりゝ小町姉

一

○今梅世ひ奇何のようおきをいい小町姉うこゝ今後擬よ
おもろ所後の集六帖おもをみえし

一

をえし物のもとおもれてきひりんい
細むすゝをもえし物をいこゝをえるようけようおもきうと

一

○今梅世奇何よ出ろふうしし
つゝうゝ世をおもうろ法ひぬ

河つかんとて人たちのうつたへしらせはべりしものとも
○今案ずるに前の後撰歌一

なかれ人なきあとの人の
ゆくすえをかなしみ
ひとりなやとおもし

一
やわさの校ぶさうをもつてあり
○今按細流抄にもつてうつさい後拾遺集春上致時の
うぐいす鶯ひとり作者部類に斎宮寮頭四位源
部大輔有家子長保六年卒とある長保は一條院御
宇の年號なり年あつて源は寛弘八年なり六年といふ
わやまりうもう六年某月より寛弘元年と改りうへれ

わさうは

一
ちちくしくたりえ法へうもさうさうなり
今按土佐日記よりあきのちさとちこち
ちちしき人をてかくやうのものはふちうりう
私云ちもいふもしるしもむすちぬといふ
一
かしこくもめつたつへうれとかりへとうかし海
つうなり
今按ひうしちくハ海ふかうおそうくみゆうて
ありなつへとかりへといふまて知なし
かみさるもふかう年月のあらうかをへうれ侍るよ
河神閑　神翁閑雅

一

○今梅かゝさひ八方紫ハ神備そもそもを尼備ふ
ら〻假名よりて字をもて雨雅いらやひやうとうとう
別儀なり神雨神義八月へうゝ式紫第十六ハ

はんのもこひちうゝ雨あめ切ハ申ゝ式みたのうゝふう
神さひ多りとは斎院なるゝ分ての句ゝ

一

人ゝ毛ゝ式神のゆゝ紙

○今梅世奇下句細流孟津の注かゝ式斎院紙
うゝもるゝ今八何のいゝあかゝ毛ゝ毛ゝ
むゝ紙つ毛ゝるふゝ毛ゝ式ゝ
道なゝなくふゝ毛ゝ式ゝ又萬葉第九登筑波
嶺為嬬歌會日作歌

他妻尓吾毛交年吾妻尓他毛言問世山乎午掃
神之從來不禁行事叙云云

一

日本紀ハ制の字紙いさもゝよ紙ゝ
そのよ毛つゝハみれゝふとの風ハたゝへてき
細東南の風をいふなり

一

今梅級長戸ハ風神の名科戸風といふ毛ゝ同し
細流の注説なり

一

みとゝき紙神
ハ式せしのゝ紙を神ハけとゝ人をまるつゝハふりて
今梅世奇毛ゝ家ハの源なり

一

ほかゝもゝまるもゝ毛ゝ毛ゝは

○今梅頼喝すり

一 しほやきさいろ

細 とはのあさけ姫の紅衣なを ゆふかうとなを花うの海うを

○今梅世家何よう出るうあ二

すはのあまけ姫うをきこ紅乃つよも海ふみあれいまきすれを

同四

次ての花けを指やき衣乃なれふびて日を雲をわとれくまいも

同十一

おつけあ花指色紅をうといふとたてふの日すをうの月を

一 にしうろうおとくくし紅をを

○今梅西の門ハ雑人も出入せた海へき人乃お入乃

たゆふはうけしれふをいふれよりいつたまふすり

一 みうをもりさむ行すを者をひうすきいてた

○今梅うを紅ハ下乃すハつうて春ゆやめの

なへきてうすつくやうまてくはよや

一 青表紙定家ことせのあれく

○今梅下のうを紅あるせてみるよ矢ケ乃立せの

あるをふ紅へきう源氏の方を紅しすふなすけ

くちをきひをうれよ應をへきよ式部乃文くれ海

じてかをくあれろうしのうをことうあをを上拾よ歳

してを物とを海くの心おこはるふハあをとみを

ちはせうのをひてあををこうをふろよつ紅てをちい乃

[illegible]

一　うへの生れ出しちこうの[illegible]

さすらもちうつまて

○今按和名鈔云張揖云誕　灘天二音　之多都岐　君不正也

一　いひたりなりになりゆえかくるしゆさよ

細方はうしこひたりなりに今はまさ人のうとをなけくきる

○今按此哥伊ふかわ[illegible]

一　人はてなりてのちはしらせんと

○今案後撰恋五　敦忠

一　いふてかくはふてふらしなる人はてなりて君ふかさえ

ちちつつとのさまひとをふを

河[illegible]

○今按此哥伊[illegible]

一　いとくよのためし

こひひてねてふらしたまれさよ[illegible]

○今按此哥の河を[illegible]

一　ゆくいさりかなもなれしやせ

○今按[illegible]今集[illegible]

ありてうれしれちうや後拾遺序[illegible]

らついさうふ集[illegible]

一　れと行とのけちめおうう[illegible]

細[illegible]

抄 松と竹と名のつりやう名別なり

○今按上に雪乃いろ〻ぬつりを紙上に今とらう
つとてつきそれを綱流の沒けそれ抄の沒事号也
ゆゑに松も竹もそれに業あるて名のはをわたる歌
て絵とけ〻そんやうなる竹を手をひきそ〻を
おもふとそもすゑにはけちめみゆるといふことかあるを
松をはうして竹をおしおしに勝劣をみるふかわるうへ
一 氷とちいしはのろいはゆきかやこ

○今按後撰
あ戸の河のゆきハおよとられやり世を尽に年をもを
一 ちりそうしわてを沒へ

○今案源氏第上十四沒 業上あいあり沒源氏を
つ沒用也歟

末通女

一 ミつにあまりせしよりよりてあるゆかりゝる人〻も
細不意見のおもひやりもなくとすり
○今按ゆかりすへしまてゝの字ハ衍字歟万葉に
大舟のゆくらくしもゆくらのみとも大舟のゆきもゆた
たゆらのみともわすくしめり侍によりゆらやうなる詞ゆ
ゆりといふゆかりと申事と同しかるへし日本紀に
富寛をとみたゆたふとよめりたゆたふとゆかり又ハ
かよふ故にや縁者ハ縁姓なる侍すらぬ人を従二位下
まてにハおほくの年月を経てはまくの学をはなてても
おもらす其故を我御子の故小きつひにしまう人の二位になりて

秋より中さらすへしハあやかし公を無六位になしたて
まふはひかのか極しもしれ不意見すハゆかりゝのかもて
言有るへし又不意見日本紀に中かりもれくとよめり
ゑに不急にかゝうしくおもひかけなに婦てあやまり
いつもおもひやりおもいふゆかなハめくなり
おもふ御ら侍りて大学の道にあはせすしハこれんの事
侍りより

一 ○今按嵯峨天皇の皇子乃中に源氏となし給ふ位
叙して大学の学生となりてたつへきのちれ准に
へ三年かけりた

一 家より御よしもやせしうるさうかく

○今按茶巣第十四
[illegible]
一 [illegible]
細年[illegible]人[illegible]
○今按くもつばさは[illegible]
[illegible]
人といふ
一 [illegible]
○今案精蛤日記[illegible]
[illegible]
一 [illegible]

一 [illegible]
細[illegible]
○今按假粧ハ女乃[illegible]
今ハけ[illegible]
[illegible]
○今案拾遺愚一
人[illegible]
新勅撰愚五云中納[illegible]
[illegible]
一 [illegible]
[illegible]
[illegible]

霧ふる紀之井の原をわけこしやこれぞなにはのかすがなるらん

○今梅はなの所行はわれなるいまこそあるす

一 いとけなくもおよすけをとめ人

花觿の字はさらにとよめるとかゝてしるる錐也云〻

○今梅和名鈔則鏤具云唐韻云觿計規反和名玖之利角錐童

子佩觿　説文云角銳端可以解結者也

一 いろくふかのうちなるのもゝいろをめ家ろ中の衣に

○今案いろくこゝろ音の所よりの涙みちの神とし

をうめしるなり中の衣を後撰集恋三

ほゝゑまぬ中よりをうしとい思てそこしきぬもあわれ

拾遺集恋三

ふるもたに中あるしいかとうきめをねしやさ思てはるか

うかはなをあわてる

年月もきぬも中あるはくこゝろをたゝうい思てそこなん

一 くれしいろて

○今案屋しいろなりいろ紅もれいろなれ

屋をあのはなれなり

一 あめふはをこゝろはひめ

孟青表紙のもこゝもうひめとあり用之云〻

物延喜式神名帳廿書名〻為之あり

○今梅草はなれてをわかなてをもいひ〻れい

豊若姫しいふはをこゝろはひよ色はは延喜式のハ

一 住吉に豊の若神社あることなし

一 けしう
○今案今の俗にもたゞしくいふさし業之後のけを濁
わろくいふなり

一 はゞつ○にもさんすんも
○今按汝といましといふは上略なり催馬楽には
しめとられよしわれも汝が妻を離おせよといふなり

一 きんちうは
○今按蜻蛉日記にも此詞おほし

一 何かは六位なと
○今按は何かはと上の大夫の何かからふなり

もろこしさるはさきにて相違なれはことのつゞきもあふし
さなよしる新紀
ぬさもしらぬ

一 河不祥
○今按ふに不祥の字日本紀にあるよしかきとみて
そも信用なし

一 いつてなりふすりしてしかれと
○今案おもふすは如思にてもあるへきこの下に
なりふとなしといふしの落かたなりしは字の字ハ衍字歟

一 これうきもと
細うちをりまてへしかれしよ柿をとなるうるなのこと志てせなし

○今梅雨に入て六帖第三法雨第五思ひあまり
所よ載るふるに初めてもしうるる法雨よ
入るるかハ句乃うれ梅と浮雲とうけうを
みる入るうるる梅

おりひ雲を行へき少しうこと乃ふ法も雲井の原
少しとはるかうる六位をうるてく夕雲のたのひして歩
なるもしんやうよ京ものるひるてのるまふと行ふ法
て原くいるけ支行んを支ます

一
大殿の大師君ハ行ふ法ハ少るなり
○今梅大師君の心と切て四行梅しんのたしばらく
ろをの法花ます

一
九重ハ宸原ハ川る
細河中ハおくうるみたるます
○今梅のつるおりの法へし御述懐ハ法花ハ
河中よりの中ハ法ハしかさす静ハ花ます

一　わはくさふとなかまこそやうな
時こそ席よわまこの人くるしに分をうけ侍れ
かくいふ事作者の詞人
○今按さんなうまこてのなれてゆく所さうもの乃
事なる道し

一　命なくてかく世の事はかくこそ
物むし所をなる女院方源氏ふ（わくしたる）
事はれへさはかりう後悔なり
○今按下にれはしかるとしひ老てれとふ
はかは　まうていを後物よわ作者の老よ
かくるとはかりき侍るなり

一　ひんもくうくはうう
○今按副くうきうなり
侍こしこのる

一　○今按蜻蛉日記のいやこしことをそし侍ふきかて
なをい詞ふとさんてうれい精進の後宴を用る
ものうよ記ものなれ考ふ風し　年齊（トシ）　節齊（セツ）工化日記

一　やうふの名はうへき宮はたてくうへ
○今按白氏文集云
をさく名ともぬこし山本ひとも

一　○今按定家卿
たのむふをあのもぬこ山本よもろへうれと枝をを

源註拾遺卷第四

おうち
くまゝ
胡蝶
ほたる
常夏
かゞり火
野分
行幸
玉鬘

おうな

一 あるまちびと

○今梅拾遺哀傷よ　藤原為頼

よの中よあはのふとねりしなきさかをなるふるうぬ

一 あるの御ぞうふうのめ

○今梅もかうばしほとすり

一 むとしうみよい

○今梅等しなるとなり

一 ひきのなくもうふるぬ

○今梅なるとうけくるとしをとうとしのすぐるに

播磨なる忠見家集よいまきたるふるまわる

うれめのいひける
音するめにてきみをけるひぶしなさと聞くら
也

とし宣ハ相撲ゆれ相撲おもしろくて
袋草子ハ忠見ハ童名なりといひなしあり
うれめと記のあること
りもせぬ恋心也の次乃詞書ハ津の國小野
こゝ乃をとめくらりあるとあ也しかれ
少てハ記のあるこゝ乃あるこゝ乃
はるまもゆを拾ハ忠見家集ハ今ひとりある成
してあるこれをしるしたるなし

一 㐂
初きのなゝこゝをさりゝこゝろ
○今梅さゝろさりゝるへし
心をさゝるくゝをかへつゝみ歩て
一 ○今按 不賢（ヨカラシ） 不敵（同） 不肖（同） 不敏（同） 以上日本紀
おさゝゝ記るきゝとあさ形といへたわるゝ
なりいゝあるきゝ成おさゝるこゝとゝ入この四ゝ
忠見家集ハ
人のうゝゝ春ゝゝあさすて人ゝゝるゝ成おゝるゝ
重之集
れさ形ゝゝ春ゝゝを望ひゝゝ乃ゝふゝゆゝるゝ
一 毎水ゝのくゝ小ゆゝくゝさゝらして

○今按本朝文粹第三辨散樂策邑上天皇勅問終云宣學峽猿之奇態水鳥之陸歩　世後の句と為す

又第十四東歌云

人の子乃乃乃乃けしきよそをうわもゆむこのあとすけく

この外けしきいかあるくしていなりあれゆむいそ恋する

濱渚鳥と如なる陸歩のみする

一

松浦箱崎

河松浦宮あまくの後あるを風土記よ神功皇后御鏡石小なりて鏡山よ御ましたくさり仍名一体と

いふ

○今按此河海辺に松浦後えあ前と鏡山と共ひ

事如くなるあり後山に為第仏覚物よ豊前風土記として万葉の第三ホと又豊前と云り河海渚なり

一

佛乃御中ゆ生せる日乃なのうちよりあらはるる者

しあるいなかとと云ふ

○今按三代実録第二十八云貞観十八年五月廿八日甲辰先是律師法橋上人信長朗申牒偏大和國長谷寺長朗先祖川原寺修行法師信道明亀年中率其同類奉為國家所建立也霊像殊験迹仰止云云　又長谷寺壷坂寺乃観音霊験第一なりしもあり

一

○今按今の世丹波市と云ふ所あるとい所と尽と

まいかはもろ紀 武烈紀云於是太子思欲聘物部麁
鹿火大連女影媛遣媒人向影媛宅則會影媛曾妊
真鳥大臣鮪 鮪此云慈寐 恐違太子所期報曰妾望奉待海石
榴市巷 萬葉集第十一云
はたいちのやちまたにたちとひしめ海とこたへもしらぬ
もしらぬもしらぬものをつくいちのやちまたにわれこやれ
出雲丹波市多遠し丹波市は山を越よあらてい
長谷寺より八今三里余あるへし此を海石市
と云てより日くまを取ちてみわしの
もとをたつねていとをもはは丹波市よりあるを
他ゝ人清水納言よ市いちの市つく市は大あるよ

わはゝ市中より長谷寺よりあり人乃かるもすくさ
にちはりけをいくクとの沖縁あるやと
つくるとい今をされるまはいちこりあ
まくかふ中よりもちふちつく市といふ
敏達紀云有司使奪尼等三衣禁錮楚撻海石榴市
亭 用明紀云逆君潛自山出隱後宮 謂炊屋姫皇后之別業是名海
石榴市宮 されは同國高市郡なり江戸さくら景行
紀よ豊後國ゆと海石榴市あり志つ石つ石ゆを
みえゝ

一

かしらゝ紀あゝく

○今按掻首し詩ゆ紀ものゆれはの志つさう

一かりんもゆくしくていひやと

○今按第五

桜花乃中の人かくるゝ事を

一ゆとあてゝしく先てなくゝ

○今按あてゝしくハわゝる河ゝ情の字をあてゝ

しゆとゝむかよかの人乃今ゆくるふたゝせし

とゝゆゝ事ゝ事ゝ注を加ハけゝ先てゝくゝゆと

つゝき之ゝ事ゝ志ゝ

一ひさしくゝ海ゝ人ゝ事ゝ新の字乃心ゝ

○今按蜻蛉日記ゝ

記ゝ者の筆乃ゆゝとわゝを事ゝ海ゝてゝ事ゝあてゝし礼

一まゝてゝかぬふゝ色ゝ行ゝ乃ゝ

○今按第九

ゝゝ少ゝ見ゝかぬふゝ色ゝ紫ゝ

一ゝ乃ゝ事ゝ乃ゝ

細源の河ゝ見ゝ事ゝ紫ゝ

花ゝ見ゝ事ゝ源ゝ目ゝ稱ゝ

孟紫の事を源乃字ふゝ

○今按我ゝ

ゝ見ゝ事ゝ乃ゝ事ゝ

なゝ

のゝ人ゝ

[illegible]

一 [illegible]

○今按和名云説文云嫗和名於毎奈 老女之称也 万葉云

いふえのおうれすてやかくいうるとこのとこ

女の假名ハ遠毎奈ハ於の字ハ用てこゝ心ハ老

老女を於毎奈こゝハ老女オイウナ於伊遠 世器抄ハ故於の

字を用ひしるまゝ也二葉ハ老ハ

しくよれなすれ早下のやうよかくなさを

一 ひつしなゆるものあつひ

○今按ちとせをちよいへと行とをてしうく爰

人はあらいつくのゆるものなるかいかるへし

一 あてき

○今按童女乃名ハ第式部日記ハ

ものなりとあ

一 [illegible]

○今按むかしいとうるはしき

なり玉鬘ハ髪のとくなるをたとくはなれ

なり玉鬘ハ髪のとくなるをたとくはなれ

うり玉葛ハ[illegible]はのうとをかめていへ 和名容飾

具云釋名云髪 音皮和名 都良 髪少者所以被助其髪也俗

用鬘字非也鬘者花鬘之鬘見伽藍具河海ハ纓の

字紙たるうとこもしうとこ和名よんてるまれ

一
今いふ鬘といふハ髪なきをおきなひて髻とゝけて
年よりたる都さみれ髪なきにおきなふへし日本紀
安康天皇紀ニ押木珠縵なといへるハ花髻の類之
人乃かつらハおくれ毛とかくすと又ちゝれをこひわらとの歌
ゆかし

○今按そこひハ紀ハ限りの心なり底といふハ此田君
うたあり万葉第十五ニ
あめつちのそこひのうらにわかことく君にこふらん人ハさねあらし
曽許比とかけりそこひといふハあらし
あるハこといふかりしれやともあやなうらおもさく

一
○今按あるく人ハ二文字なりをぬきしていふすハあるく
人のあるく人ハおほく首よりて一かしくくつきこハいつも
しかあるくのといふあとしこハいくあるく人年ける
人とみといふなり哉し

一　[illegible]

一　[illegible]

○今梅拾遺

[illegible]

一　[illegible]

○今梅[illegible]

[illegible]

一　[illegible]

[illegible]

○今梅[illegible]

[illegible]

一　[illegible]

今梅　碎文集　細流と奇の事といへるあり又

[illegible]

一　[illegible]

今梅伊勢物語よりの[illegible]

一　[illegible]

[illegible]

今梅[illegible]

一　[illegible]

今梅[illegible]

[illegible]

一　[illegible]

○今按萬葉第二十防人の歌よ
あらそのかりてれば付よ
はのはれ時と彼者雖時よて今のあれは雖時と同し
晩おくれと同しくおのれとなれるとうるう

一
さねかづら
河朱草（カキノクサ）後漢書　福草（同）　村種（同）延喜式　紫草（同）風土記
○今按朱草福草は延喜式治部省式よりえたり
村種は式中よりなり紫草は何の國の風土記
小のむらさきの集和名抄草はむらさきなり
和名云文字集畧云葛（音娘和名抄不久佐日本紀私記云福草）草枝々相隨
葉々相當也令義解神祇令云三枝祭（謂率川社祭也以三枝草節酒罇祭故曰三枝也）

さねかづらはさいたるはいたくもひろくのびるものなり
赤三枝之中（カニヲ）乎（ヲ）祢（ム）登（ト）つまもうつ三つ枝は
かるるは中の枝なり葛と三枝と名は同しけれとも
はかれは三枝は葛なれはしてするなるへし

一
ちりもとの多乃せをひる
花十樂の中に蓮華未開樂のこと
○今按ちりもは諸多十樂乃中なるは蓮花初開
樂とをあり

一
清くふの矢はら彦小とはあるまくくるやうな
ふに
○今按拾遺集春　菅家萬葉集の中

[illegible]
山奇絶[illegible]
[illegible]と定家卿も花橘[illegible]一種[illegible]絶[illegible]
[illegible]今は花橘[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
紅の橘城詩[illegible]　[illegible]
閑歌燃と[illegible]
[illegible]

一　白妙の衣ほすてふ[illegible]
○今按萬葉第二十防人の歌
　ちくしへの[illegible]
　かるもきほすらこそ[illegible]
一　[illegible]
○今按
　やまとみ[illegible]

一　かもりのふるうらの別命とゝ[illegible]
　細かきうるはしき[illegible]
　河ふる[illegible]
○今按右二首行[illegible]
一　行河のうらひてかゝ[illegible]
　河辺のすゝきを[illegible]
　かもとる神とゝ[illegible]
○今按かれるはたゝ[illegible]
　やすれをかやすきこ[illegible]
　板の西[illegible]
　[illegible]

いへを行川の巻よ行川のうきひてみくしのはてつきよ
新ほうこいへるもうてにたれるとこいへをおもしうこ
あ山ほうこへう来ほうすり

一

うりむまやうてて

○今按萬葉四ノ

すうゆ乃ゆ馬やよつゝ井の水となんなりくるゆ

胡蝶

一

からのつうあつくせうひうおろしはそちうあ
たまふ日ハ

○今按古今雜上云中將の今の家乃池にあと
つうてたうしうめてあるひ者日しうこ

一

うの多ものつひうあれしてあひつほを紀枝ゆ成
ひてこひちふ

○今按うく成句ゆておしの波乃あやこうも色し

萬葉第十

ほうすゝ行うすうとふうゆの枝ひうてうひをうて

同第十六 長忌寸意吉麻呂 詠白鷺啄不飛歌

池水のかさまひろとしるゝ雲のほとをひすりて[illegible]

一 きやうかうの人くく

○今梅行香しかく

一 昔梅沼をゝくすると

細 位古梅沼をとしをく

○今梅位古梅沼を一條院の御寄進と源氏

ものハ後よりかきしるすのすり

一 ほうき梅

人をゝのをらふ

○今梅

むかしけてたゝしく秋萩のうもれのなかに紫おなくる白菊

御寄進なら紫しをゝ今ハ未紫ハ後ゝ白菊ハ紫ハ紫ハ白菊

これよりおよりらしをゝ主殿の不成たゝへてをらくをゝ

なれちりや

一 ひきつゝたゝしへを

○今梅神をひきの弟とたゝをゝとしてさゝをせをゝしん成

位古沼をうつしい撰の宮ゝ

一 かをとうををををさふ

○今梅うゑそめしころ紙をたゝなせるもの
吉野よりすきてゐをれる法師のいふ紙いとうすく
ほそうちる体の紙なりしにつゐ海もとりしや

一
かのゝなをかを
孟會明

○今梅かのゝ八方葉より髪結を用ゐる會明あけぬの
乃きのあけくるとしるしさに

一
○今梅信濃国栗

一
おかさのわのとたゝをもるゆれく

花こそひぬおかさのわのゝ人ゝ安よしてやわらんといふ海
世さいろいろ山海ゝどいふ人ゝかの歌八六帖ゆ新編
集ゆと重之集ゆとあるこゝ
○今梅朝綱集八八人ゝ八六帖ゆと重之集ゆ
ゝ八八兼盛家集ゆて
二葉より今八おかさの松ゆ八八六帖ゆ八八
ゆ八八ゆ八八ゆ八八

おつるやのまくらぶ

世ゝ乃人をうけあうけて

一　なをいとに市れくと市ゝ陸

○今梅かとらいとに市形くことわるんこみ遍

一　人よにぬすうさはこころ

○今梅ゝくの世乃人のゝくすぬを人ゆぬとい人を

ふさくゝい源氏ハはゝ中の釈ゆて好色のゝあ市氏釈

ゝもいひくゝ秋のなをにありてかゝる沖ゝ人

なゝはゆけるきゆくゝひゝとあれもゝ世ゝとはゝ

あ市氏ゝ市にとこれすゝとふゆ世ゝ人ゝぬゝきゆ

なゝはてゝゝあゆとたやゝく人のけゝゝのゝゝハ

世ゝゝゆやゆんゝるけくなゝ

一　ゝゝゝとなはゝあ市ゝゝ

細形乃ゝ紀人ゆあ市ゝこれ形の人ゝな紀ゝる

○今業細流の注いゝく注ぬゝるはゆ出る市

市ゝ質非ゝゝなゆ人なはゝものしいゝと話ゝ

世ゝゝあゝゝ乃人ゝ新ゝしゝゝゝと話ゝゝ世ゝ紀ゝ

ゆゝゝとゝゝゝゝかゝちゝゝゝれ祢　ゝひてゝゝ

をたわめてたすけふしゐ
あるあるをたしなしとめしかをとけなしに
○今梅はなるあるはるをなしてあるさま
やそのうるはかれるを第竹
黙然(モクネン)不有跡(アラシト)こと
はるはるをやまくはをれるを
はるはるをあるはるをはるはるを
花宴おもしたなるあるはるはるは

拾遺愚二　　狩恒

[illegible]菖蒲[illegible]の[illegible]
花散里の[illegible]
[illegible]
[illegible]

一

[illegible]
○今案に[illegible]
[illegible]
[illegible]

思れをまつけるるや

一

ほのぼのしらけしも

細おもくくしなるといふ詞

○今按ほのぼのは弥乃字紙ほとんどしも式

なるくと音便よりくいふるを弥ハうにわやう

しこもむなくくのつとをもて同じ和きハ上乃とをす

みやのとをにるを後ふるをなくくとうかかれ

ほのぼのの乃詞

萬葉第七旋頭哥

みぬさとるとれるいふ杉ほのぼのと

きとのいうれぬ

拾遺集雜哥

文つ屋初めたくみの白ほとゝるあ秋をみる

右二首ハ始ふる

六帖

ものの家けきこゝろ金のえだほのぼのと見ゆる

右一首ハ程ことゝ先て

一

かさつくつくし

紙さ中ふるのほくしふる

○今按此心ふる事ハ俗すとかさにふる紙ふ

云ふる此心ふ同じ耳ふの類ふる俗ふ此

ものとふるとふ心を知ふるべし

一 日の出のいとてもかくてもなしこと同じことなれば

○今按ずるに中ハそこそこにてもなるやうにしてしなるもハ山斗の上乃句の絹とうとうの方

一 えしさやうなるなりすまうかわた

○今按告の字紙乃ゑとよりまたの義なるのうとこそ紙ハ冊ゑ名紙ハ告よの字なりハ名告なり

一 常蓑

○今按和名云四聲字苑云氷和名比水寒凍結也膳夫授云立秋後不得領氷漿今按以氷入漿也

一 すいくん

今の世すとあるてひめとハ

○今按和名云唐韻云糒糧編索二音和名比女或説云非米非粥之義也

一 そこきくそこぬるやしろ月ハ人すりのきやう

のいそのあんとはくとうて

細おろしこかはるしるものきこと

なりなれ月ヒ濁まる氷よハ人すりてハるハるる

時
たちそふかすみ
よやとなり

○今按弁が將とくり紀さはいえ知行とこの
近江のくにしぬ[illegible]たいそ源氏を
朝臣なりさやうのおちゐをたひろへとはさまを
よりかい細流時花の心を酒ともなりていはく
しらへいみさはつてたとへとをちかとをひ
ありきせ一人をはたらおとりしなかをあと
かなりこりの城ふこをたりふやこ紀月のこりた
たへられよりたとあをいかくをみく弄をなやうよ
ちきまふこ

一

おしかさしかてて
○今按河海と行幸の事をしるへしと行幸をこ
拾遺雜下

藤原為頼

一

世をすてこれる河やのとすこ
いとこしれめきしこひ
○今按万葉第五山上憶良の哀世間難住歌より元
て人よいとこ彩をの代
多りうえさしたたてかくゆけと人よいとこえか
くゆけと人よにくこえ
とこはをこいこえにくをえいをはをあくれる

いくわの為ばかりもせぬ中にをとこあまたあれど
一 ゆくすゑうらやましい
○今按養在深窟人不識　長恨歌
一 世にきこえうるしごとなかれと
○今按第第第十一
一 ふるへばみなよりやうきものとなるなり
○今按繕合はまの地獄のいてたちあのあやなり
行屋ようつかのこしけ城あらせてわるくとわるき
ふくいうに内宮のものといくんあれいなりすりし

一 和琴
花家前ハ弓六張を弦を平すゝしうゝ
ゝ和琴ゝ引ハ抱を仏ゝ如しゝうゝといへ
○今按弓六張をゝ〳〵てゝ引ゝゝ出ゝ出ゝすゝといふ
本ハ長明の無名抄ゝゝ或書云令琴之神
神天手首命並張臥張張天真弓六張而調之鼓之
此神者是飯井宮之玉琴社神
一 こゝにゝゝゝハ
○今按
一 うたゝ和ハいゝあゆゝ山ゝ地を

河一所云

一

ゆこうのたらすまいんつくりてゆうんをにて

○今梅試言はて不動こいへろハ仕者怠怒の相を現し

いかりくて女の念ずるふ相應せぬ所なるへ禁秘

所抄ょ帝いあけき教法を將念佛ふ[illegible]たりんゆハ

ちる迦うし次ようかせたすへる数るる不動の示真

言おほき中ょ今いへ鈴ハ鈴印慈救呪なるへ鈴示の

さ法とくくを慈救呪とあらふ中ゆ志云て

強ょ女ふ者怠せ少へよいへうあをいつもの佛善薩

名の印ょとと女なしれ結ひ布ふ[illegible]ふ[illegible]迦女の

佛ょへき佛ょ行ゆ[illegible]ふ師ほうちょハ地蔵観音

天女ょ代鈴ゆ天女吉祥ゆ女ふ[illegible]へ[illegible]ハ[illegible]ゆ如来

こ行ちと天女の新いつもとぬうひぬへ[illegible]不動降三世

名の明王ゆ門持國名の法天ゆ[illegible]ふ怒念[illegible]

[illegible]門ゆ或いいのれ師ょつけて[illegible]ふへ[illegible]持佛ゆ

ょ安ゆ[illegible]ハ法ふ[illegible]ふけこかゆ[illegible]男女

信信先知ふょて[illegible]てその用意あるへき中ゆ

一

后ふ○乃姫君

○今梅ふ知ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]

いひ行樂抄ょむこう[illegible]ふ[illegible]

うちうこうに

一

○今梅試言ゆ

一

祈きことになぞらへしるびき活して

○今按第十一の祈の字禱の字を祈くことあ
り願乃字を祈ふといふなどいふ神をつかふ
もの波祈直といふも國家をたもつめ自他のすを神な
たすけて海の活へと祈りものゆゆる社の字波
こそともむとこそいふこのうち色の字をこそともむ
みあれし波祈直等のまつりく所新をとふ神のすを
所なを直ちとなるなり今

祈きと祭はせ久年ちつとてなけきぬとうこるあ

一

ひとかうそうちやうて

○今按人のくそしはかてあり

一

せうさい〳〵

河小賽 和名

○今按 和名鈔第四雜藝類云雙六兼名苑云雙六一名
六采 今按簿奕是也簿者博信云須久呂久 又雜藝具云雙六采
揚氏漢語鈔云頭子雙六乃佐以今按見雜題雙六詩 第第十六の
詠雙六頭詩ありて假名よハ佐敵とあり頭子とさい
こふと葉の字乃音波和名抄に周禮云小賽賽字
和名よあるなり玉篇云簺先代山切行碁相塞曰簺 簺ハ册字
ゆゆ玉篇の注乃ゆゆ碁をけちさしを簺といふや
但塞乃字禊得切敬也と注し なをハゆさくるを
禊代切とてハ陽也と和也ハ相互よ道をたちてとふ

紙りをいつまゝと考へつき之紙をもて愛ゝ乃幕と
をそなへし

一

てらきせいし給てい

○今業の紙のきゝ頭とくハゝよかすこねの紙て
さとしいれぬ時のきすり

一

この人ゝとゝけしきやまる

○今梅くゝれることを立節を考やうすぬ紙とそふ
なりよりはきてゝるとう人へといへるよけへを

一

かちいひちゝふ

細沼土ちゝすとわ

○今梅信よりゝくゝしきすり

○今梅信よりゝくゝしき紙ちけのゝるれぬをいふ

一

都すの通し又梅するよ脇近すてゝの人ゝ紀とい
へゝ仲の三十二相の中にと西臂修直摩睇相又諸指
圓滿纖長相をてゝ古事記よ日本武尊の宮簀媛
小碓命御命ゝ天ゝ仲乃ゝ言ゝ乃ゝ言ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ言ゝ乃ゝ言ゝ乃ゝ言

よ世言とろくくよあらん末橘氏の皇乃宮ゆゑ城
つみうへとい人ゆゑ城と花ほしゆゑいとうまくれと
いとうとと

一

ひゆめゆめいとちやうすると

○今案ずるに額この乃乃みやしき城い今佛乃宇
二相わと額廣平正こてほうろしくいのみきを
いやしくうゆうとめなゆゑをいへを

一

花とれはつかうゆゑあと

○今按和名云周禮註云褻器褻音思列反謂清器虎子
之屬也今案俗語恵子於保清器師乃波古といれよりもは大御虎子なり
河海尿壺花鳥大壺延喜弁尿壺の出所いまし
院式

一

ら法滅ゆゑ法ゆゑ法ゆゑ法拾遺ゆゑ
ある女の人ゆゑ人ゆゑ人ゆゑ人ゆゑ世ゆゑ日ゆゑ年ゆゑ
あらしかゆゑらゆゑ天のゆゑこすてゆゑれゆゑきゆゑ
いとしかてゆゑ物のゆゑふゆゑを略してゆゑ

一

妙法寺のへうゆゑこと

○今按三代實錄第十四云詔以近江國滋賀郡比叡山
妙法藤勝両精舍為宮寺

一

あんとものこと

○今按賀茂家集ゆ天慶六年三月藤大納言殿
の御せうとくすて奥御をつくらをんとてなかせり
ありおくいてゆかちいらくゆまちうい大殿ゆ

はやし城記にのせたり
きてあえるのふるふくろつゆよりてつひしあ屋
くせすしはよるさひかりこゆのくすしてき
の日松乃枝よりはなてたくさいろ應神天皇紀之肯
此云阿敵とあるとかやあとと同
いふにとゆるもや

一

○今梅河海より川もしろ哥ハかのかるる未刃先
後撰恋二又拾遺恋五よ
あやしくもいふかいかるふかてらあすひもしへき
うかせ川小舟として
あ記ふ城ゆきうふかをとるの今の都すとも

一

○今桑此哥かのかるるや
草まくらひろのうとのいうこと記
○今梅文芸家集
ひろのいうこの浦乃月すを見ひろふひあ記おふとわるる
河海と蜻蛉日記をいまこそるハたる全

一

ほのハ水のと

○今梅六帖
今ハ大川ののひふ哥ふとのゆえ浦のうら人
ひこ向ま記ふれるの
屋ふといふやの
河粉　白氏文集

○今案和名云釋名云紅粉和名同迹紅赤也深使赤所
以著頰也今按紅即顔字也又云文選好色賦云著粉
則太白和名志路岐毛能粉ハ志ろきものなり粉と云れ
るなるべし文集ハ顔粉とあるを河海より引き
たるなるべしかるに顔乃字誤なるべし考
定

一　かすひ

せこの家とうらふひきさけらし清
河花精の流しく宮はいかなせこの家のとを閉らしき
○今按ハ恨ハ初の句なるべしとあり

一　赤松

○今按定家卿の哥よりつゝに赤松なれてやと
よみ侍人多押れて赤入なるべし赤松を赤松とも
ゝ折し赤とゆハ人名ハ折松を赤松とかきあるべ
きなり

野分

一 はくまをうとくやなのへのいろ

○今按古今和歌集に春の歌に

春の潮汐流しるおくしまをとをく遠ざかり行く正

遍昭の母乃ゆかりにやとう詠い方時遍昭のよみく

すしれなる名のこゝろ書ふと延喜あきれ野よつろ

てゝ

一 ちゝしゝおのしろく

○今按紫式部日

秋風はすゝしくふきぬ鳥のあといとゞふかくなる野

なかに春のおもゝ乃形その

一 ○今按後撰集に 伊勢

枝ゝはなのもとゝ乃なつかしやとの春さくゝ

春のゆ乃はなみちゝ

一 ○今按後撰集

ちゝ春の風乃吹しく秋の野をつゝぬきとめぬ白ちゝ

はゝのあけぬ乃の春乃まゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

河朱槿 和名

漢名ゆうの槿ハうあやまてふかくさうゝ

○今按朱槿をかゝ槿ゝ清ゝ潔ゝ和名云

本艸云櫻桃一名櫻和名波々加一云迩波佐久良

云玉篇云樺戸花胡化二反加波又云加仁波今按皮有之木皮名可以為矩者也

世玉篇よい今はいにのの木しえくいを木のはの矩中（クテアカシ）を
すべきをすべて樺とこゝろ故
新撰集第六に布人長歌云
櫻皮纏（マキツリ）作流舟二真楫貫云云
和名今按皮有之こいへるもの也とすれとも
とゝろはの紙なれは紙にて用ゆ物なれ歟
本草綱目樺のかゝみえるかを樺といふ樺
乃中より山樺弾よりを皮を用ふるよりもいとつよし又
もゝ文とて一種の海名のあれをもの名なり
なるべし河海よりもしるるおい貴家百樂集よりあて
拾遺よりのをもしるしるに高句麗も樺なるとあり

一

如樺なるしもしるるおやまなもと物語のもしくし
ひなるやうなる樺をもあるよりなてあるこゝろ
節樺乃ちくみえる節樺に紅をかけるを
ものかはとうつくしくなるこゝろ

忠岑

○今按古今
あかねさすかさうの山のてらの人のてらの
万十

日のせこの白妙なるを山紅れをうつぬくを
日のもりふさ物なるをもうをもうか
○今按物なるを時なるを人をもしてうを
八合ちく跡なるよ次し

一

そなたよりあひくうれいうらんゆきとまるうきへはなき
うきへはのかうり
むひつふくとなれのみ花
時成也孟同
○今梅ゆきてをる梅
一
風よつきてあくうきたるうやかくしかん
○今梅古今よ
風のうへよりうちとめぬうち梅ゆきてをる也梅
一
なよ竹をんなさへ
河縻竹
○今梅およ竹と縻竹とかるるなりるよう大さ

のあるかたちひおはつの外和名鈔云兼名苑云長
間筆今按和名之乃女 ひ長間筆説信小なるけ竹をなる
けうとしへを萬葉集第二ゑ
奈用竹乃騰遠依子等者云云
名湯竹乃十縁皇子云云
よとゆと通ずるなるよこもてふおゆけこまりうことを
ゆくとゆくよりゆくとゆくとゆくと

○今按延喜第十三云
處女等之麻筥乘有續麻成長門之浦田云云
此麻筥の事は細流よりめりおけるものたるべしと
めりたれい蜜麻筥なる法にて結めるはしきものの
かくらぬるうことてなり今義解に産神小稙鉾を奉
る姫神に絡悋麻筥なる物なるいふ麻筥は
水桶とかきたるはなりへと水桶とおもとつも
麻筥なりかつきなる名なりてかよりへ見もるなる
かもしくしくしく吹みるをはりかしら
○今按あるくことてしふに常にしらるひる
をさつ紀村をはりふつ　ふすねぬ

○今按延喜第二人麻呂所よ
はつの葉はかなるをやふみれもれ妹おもふとれ有
これをなるこにはりこにはりけきこ山城こ山城第よ風
吹ふりてはかすあるを妹をはきれをしてひとへ妹
袖を振あうはてあるしきあるかろふとよる
ふれを今妹寄花をとをとをとせるやあり

みあきの

一 はおとるものの流こと
河にたゝぬ水の流るゝ様なる形のゝ
○今葉に所河よりおとるといふものをもて
一 上を通ずの初はりみのまわり
○今葉和名云周禮註云帳曰帝 羊益反 和名 北良波利
一 ゝゝけくいのゝしく
○今梅ゝよ行となりてけるもよ先ハゆゝけくと
ゝけくこゝ新敷万八
おほの浦の名波よりまるゝけくをもてこのゝ
一 けしらいおけまゝゝ

○今葉万葉第十四に異情波けきゝとゝ
梅ゝを異の字波けしゝ
ゝ先ハゝ新しおほく様のゝ
一 にゝの様よ
○今梅流事の心ゝゝ
水の事なを見をれとうはけくいて男女ゝへてお
をもつきゝのこをしゝ
を流てゝ波つをゝめり
一 いゝへいけ小おとをもこ
思別 抄 面別 板
○今梅面別を見へし

一
記ものこれおほし知てけれハ
○今梅内大臣の心よあくぬ所のことにハ
紙異業して国人もしれ所をとる
法しるすの

一
十六日ひんめくめて
河彼岸 弁法成道経日云云
○今梅藏経の目録よんてを偽経なる題目を
彼岸こうふるの所四ようてあるなる題目結帰
日記ものとみえる

一
ようへ今ものなる紙をこれ
○今梅ようへとくけ蓋をせへ
ようへ家

一
○今梅ゆうなくハ
ようへ今日年紀よりあるハ
いとうやとく

一
○今梅ハかりなる
いとしく

一
細いとしく
○今梅日年紀ハ勤心又勤乎(イソシキコロナ)(イソシキロナ)あるハ能汝
ものをいとしくとふるの仲哀紀云又筑

前伊覩縣主祖五十迹手聞天皇之行天皇美五十迹
手曰伊蘇志故時人號五十迹手之本土曰伊蘇國
今謂伊覩者訛也[illegible]
[illegible] 又續日本紀云勝寶二年三月
戊戌駿河國守從五位下猶原濱獲黃金獻之練金一斤砂金一斤
於是東人等賜勤臣姓　文德實録第四云仁壽二年
二月乙巳參議正四位下兼行宮内卿相模守滋野朝臣
貞主卒貞主者右京人也曾祖父兼博士正五位下猶原
東人該通九經号為名儒天平勝寶元年為駿河守于時
土出黃金東人保而獻之帝美其功曰勤乎臣遂取勤
臣之義賜姓伊蘇志臣父尾張守從五位上家譯延曆

年中賜姓滋野宿禰[illegible]
[illegible]
[illegible]

倉曰唯唯而寤　世よ上にむひていはくこひちへむ
ひていはくといへい昔いよたにむひてとをくいひあり
しを

一
なのをふくきてをん
○今按あはしてたらむひふうり和名云聲韻云鼓
北角反和名布久流　肉憤起也

一
をしーうかきいくこをよ
○今按情愫日記ハ也河ををくこーうこ佑ホヒ
ふくをり

一
なからうこのいくへわをん
按こをハ短哥といひしをいへり

○今按哥集ハ何歌一首并短哥二首三首あり
此短哥といへるハ三十一字なをいハ初乃ちかきあをと長歌
一首といふれをとも長哥をいめ〳〵ハ又反哥をり
ぬ布をとも常の哥成短哥短謌或ハ一絶をいをと又
哥ハ思児等七首長一首短二首三首又第十二ハ此月君將来
跡云及哥葦邊往為之翔乎見云云石二首但或云此
短哥防人妻所作也然則應知長歌此同作焉ハ
ハ短哥ハ哥ハ所をて四ハ又續日本紀第
九ハ仁明天皇の四十寶筭を賀ーをはをて無福寺の
衆僧寿命經を四十部書寫ーこれをあくの後成
ぬをハ長ハ一を成をハ比

和名抄にも云家ゐと注かゝれたるかとも長哥とあまたいはれたる雅哥
にて載られたるかとこゝにはかゝれきひらの中将の哥ゝ世々の定家卿の
撰ゝと万葉集にあしく考へ〻く文徳帝の千載集より
雅哥にて長哥をとりあつめられたるなりとかゝれたるよりの
くまなく新勅撰集二十巻第十六より十九まで
を雜哥にて四巻にはいらず第二十より文より雜哥にて
あるを雜体なまじいに雜のかゝるをいとかゝるを
雜哥より長哥迄より旋頭哥あまたとりたまひ標せ
ずしてさしてきゝ侍りしかとも源氏長哥の家にて人〻く
かゝるよ初めの述懐といふをとある

往中納言通俊卿の家にて旋頭哥よみ侍りし
意のよみ侍りしをかゝるまきく物名ふるにて地名と標
してつゝしよみ侍りしかかれるもをかしと
標してい中古の集のあやまりとたゞしきまりの
かゝる哥と標せしかゝるのよかるなりの雜
哥にて長哥と標せしかゝる旋頭いあるをひかれまと長哥と
乃と標せしてこゝまきりに俄よ標せんとけやき
まきにさしたよりまゝにかゝれたるなりしかるに紫乃
撰者時代光孝哥旋哥のよみ人しらずとかゝれる
一巻の中小長哥乃心は勅撰よりいまれり
とゝまりとゝ侍りよ

○今梅後拾遺に

ワ花をあるき物とよめるの

すうとしいふよをうこしいふて一向よめてこの

後とあう今い事をとるうくなるこハ事ハこの思ふる

歌をうたふと紀ふをあ後ふて人の思やけるく

ふくるるやしいへ

義孝

一

藤袴

らけひたまふ人くにくらいあるあ海よりあ

細咒咀の心ようふたに

○今梅日本紀の中に神代巻よい誓の一字誓約

のあ方をとらけふとうふ神武紀ふ後ふを

約の字をらけふとよ免ほ日本書紀古事紀ハ

青城のてかふよう事ふ呪咀のワよあ後字

乃ふく紀屋し呪乃字ハ神代巻よ後ふしよ

免ふ又のふとしよ免ふ咀の字ハとふやとと

ほふとと思をふうふにのふふうけふいひふく

思ふ面ふけ思ハ後ふいあき方成月てのふ

一 ものの名にのこりてとのふかりそくとおかりて
うけとりて
河諸 日本紀 諸 同
○今梅山あり字〻とも日本紀くしあたらし乳諸
字ハうるはしと後〻とうるはしの同し人せとあり
いうもの也
一 ものひ〻くわりひ〻くてくくこ今是ハぬきすて
ひしくしとしく物うくはものと
○今梅拾遺
花さくとしてとうの字ハ間しなすうれをうの
限りあまハうのぬきてあれきあのうさ弱

後拾遺
なひ〻ひくみよそうて是海の底ハ底をとれぬるる
千載
明石の浦ハんまくたれたこのうの杉をあ
一 山ハあ〻くし 時点ニロニ 衣の名くハえ無ひ弱ひ弱
事也
○今梅あ〻くし衣ハ名弱ハ弱ハ弱ハ明
すぬめ也
一 うつくしひとしくて
○今梅うけたとハ山ハ山ハ山ハ第第第
さ〻ものをとくハ人書ハ書ハ書ハ

[illegible]

同十

[illegible]

同十六長哥

わすれぬのたゝぬ[illegible]

[illegible]日記云道[illegible]

[illegible]

一

[illegible]

○今按[illegible]

[illegible]

一

此哥[illegible]

[illegible]

[illegible]

○今按[illegible]

[illegible]

[illegible]

一

[illegible]

[illegible]

○今按[illegible]

[illegible]

[illegible]

あきはぎ　藤原為家卿

ものとて山ぶしの友則と原滋春紀貫之凡河内躬恒おの
くすがたつゝ行きすぎ中ほどれい所恒の匂なり
一　いふかやこひのこゝろをあはれとてたのもしたる
ものかな
○今桜いふかやこひとふたつ思ひしの半紙
かのゝしいなりの
一　いとせ山ゆふ紀道とも
○今桜細流ゆふ所中ゆとの道を妹山背山を
合て妹背山といひ所所とあり所
乃人今ふかまてゆの山をかくいしぬる

一

今ゝいくゝの国ゝこそあるもひろの川の乃妹と背のやま
背の山城わの妹の山を曲ふありてゝ中を紀川を吉川の
なゝ所ゝ所ゝ妹の山乃あひ口紙かゝ所ゝ紙
妹背川と云ゝ所ゝ所のすゝ所ゝ所ゝ所ゝ紙
のやゝの中ゝ山ゝ川ゝ所ゝ乃ゝ
乃ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ
せのやゝたゝむゝ所ゝ
山ゝよゝれゝ昔ゝ杉ゝ紙ゝ
乃杉ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ
ゝ玉柴ゝ所ゝ所ゝ所ゝ
箱ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ

○今按古和歌抄下云先帝の御時兼香殿乃御息所のはらからしよ中納言の君といふ人さゝめひとめ
うるさしとて詞をのゝ文とゝ男まして一宮と申えて色
このゝ給ひなりけりのひて侍さまひをあてなりけり云
かの兼香殿のまへのねは雪の文ゝうるはしうもゝ
わてかくれゝゆえなりけり

しぬへきものゝ文ゝ姫君はかきえゝとゝ雪わくねはなを
なてゝ見はゝ雪おとしまれとはひとしひて見たてまつる
りるとまとまるひてかゝるゝ新ゝ
御使ゝとゝちわひゝゝや

一

○今梅ひとゝけるゝ雪のはゝうちわひく
やせゝよゝやうゝ役ゝいゝゝゝ

高野往

一 けふそもそも心ゝ所しけるの事

河多日本紀 幾多 同

○今按日本紀ハ若干紙をこゝに失ひ多数

ハ小へさいたしあり古よりはなはだ又甚多也

かゝる紙とにへさめ點しきりとよをそ乳

萬葉よりこゝくをはけくこゝらをこゝらをこゝ

くこゝくこゝこゝ所しる河さ海くよかゝ

一 ゆゝる人のためにく寺のゝをもゝゆれゝ

○今按ゆゝる人を舞ふこと也高も弁ともさ海

くよゝ六乃佛法を弁のおもしをとゝ(ていゝ)ら

ましく世人ことあるゝ舞ふ乃ふよ行ましゝ

をゝあゝもして弁のゝをもとゝせゝれて行ゝ乳する

酒し験あゝてゝ後世繁乳弁紙ゝ乳

一 少小ゝゝゝゝゝゝ乳ふをこゝ

けゝゝこゝこゝこゝ

よ紙ゝけゝゝ河名ゝ

くゝふ心をゝけゝゝこゝ紙みゝをかゝて世弁

のおゝこゝ紙ゝゝく世海ふ信ゝてゝ多人

いゝゝゝ少よをいゝ

なゝこゝふゝゝ

ゝゝたゝてゝみゝゝ

○をゝけゝ

○今梅山渡川に茶屋せゝ来の事なれとも一二
乃句いひてうかゝ句に夫婦のかたらひせて人に渡をも
いとなれとも日ゝ渡さすして人を渡をもものとも云
せさるとしとこなに約とをのこちきほとりあり
と朝の宮城ちきりとしあるつゝ歌をといひて
信明家集云云年ゝこの三月をとうえくるは女
をつゝもこの世に渡すとゝ川乃ちゝ武れなに匿
也

此の歌も出ひとつよてまたちに付の人をゝる
此云年女の何いたれ梅沼を渡を河をゝうゝてわゝ今
世繁の恋云年よ渡の河に此くにかゝる彦へ

一

○今梅山前まとし山河あゝす時いかすに渡すする
少へゝ

一

みひをにまとぬ紀よ
○今梅ゝつと門を渡ゝて河渡ゝとゝ人あゝ
ゝゝうにさをも今さほくゝのまひゝすて渡河の
あゝと消ゝやとゝうゝくゝよ渡ゝうゝしゝてゝ
不敏の浄消而やとゝ渡氏のゝ渡ゝうゝ河海ゝ
水深日本紀 日本紀よ水深をみとゝよ武牛れ
延喜式よい水脈をゝとゝとゝゝ和名集よい水脈
をゝ武ひきの力稲とゝ武

一
[illegible]
○今梅第七
[illegible]
同十一旋頭奇
[illegible]
ゆゑ曲道(ヨキミチ)ゆゑ

六帖第二
[illegible]
一
[illegible]
○今梅 遊仙窟云余時把著手子
一
[illegible]

細
[illegible]
○今梅[illegible]第[illegible]
[illegible]
一
○今梅[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
一
[illegible]
莫思跡(オホンラトムナ)[illegible]
[illegible]
[illegible]

○今梅後撰

ちはやふる神をみくしげ[illegible]

一 [illegible]

○今葉中よ神のみてをつけそへて

[illegible]

水島のかやをとりぬるひよきあすのみてをこはさうら

一 [illegible]

○今梅 和名薫爐北渡李

一 [illegible]

○今梅金葉

[illegible]

一 おもきをこのかすりつるひとり

○今葉 和名云薫籠方言註云火籠多岐毛乃々古 今薫籠也

一 さとしいけさま

○今梅いい発語の河すそけのよ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

○今按新勅撰

[illegible]

一 [illegible]

河傷之ほめる詞

○今按[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

○今按二佛の中間[illegible]

[illegible]

[illegible]

間人と[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

○今按[illegible]

一 [illegible]

○今按和名云櫛鬢敵

文選云勁敵理髮李善曰通俗所以理髮謂之敵也敵音雪釋名云纛音盜導也

所以導櫛鬢髮也或曰櫛鬢櫛音歷和名賀美賀岐出國[illegible]

[illegible]

為書紙遊してうしつふすう

一 ○今梅ふれもまさ注のなり

一 ○今梅やとと紙ものやうもかハ寄よ漏をうつう

一 ○今梅離別のかるひとをもくもあといれぬと

ことかくもいてものハ

つけうう

一 まうくし紀のかく紙

○今梅日本紀ハ禍の字をあうしよみ延喜式業八

月悪事 古語麻我許登 ものの柱言とかうふれの

字なあ注

一 みやまあるよう○おうくし

○今梅六帖第六

ゆうあ所ハ紀ものうこうのわけ海人とをうこ

山寺紙又なくハ毎よ侍紙をてう

かあ所のしつく

一 ○今梅遊仙窟よ未必の二字をうくうくしあるの

ものあるよ未決の河之よりていつまも山河とよ所

うこ未ものの字あり又のよまつれる沫おく所

紙をうかくしいてをてよ彩所今山所も

をくう和名鈔云沫雨淮南子注云沫雨潦工深部

若霞盃 和名字 太加太　万十二

うらかすとしいそつもわるゝ越るゝ〳〵つちよりあらしそよけ屋

同人

けるれをふたしおしわるめ其字ゝあるゝ沈けとるよりゝ

同上七

天さうひかるわ越をうゝゝゝも級こ沈けてまわそゝめや

うゝひをのきれく　次うゝゝかゝゝも考うゝ重ぬおらゝ考も

万紫よ点れゝのかきゝ考ゝ紙ゝ沈ゝ重ぬよりかりゝとふゝゝうゝ

ゝさゝゝゝ

なりひ川尻をなかゝ次めわゝゝゝゝゝゝ人あゝて沈ゝや

あゝいゝうゝゝゝうゝひ沈ゝ

一

○今梅風俗上野亭ハ玉とハいまゝうゝゝゝあるゝ日

本紀ゝ分の字紙まれゝとゝあるゝハまれゝゝゝゝるものん

ゝうゝ分ゝ孫ゝハ五音通ゝまゝ也ハいまゝハいまゝかゝゝて兵ゝゝ

乃ゝハいゝゝ同ゝしけゝゝをハゝて沈ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

清ゝ流ゝ流ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

風けまとなりてといふる無し六作小
いろこの部
作りの沈丁香とかとやうに
此衣冠束帯の姿ハなし紫式部と
あとなれとも玉葉第二人まつの君ゆとと
いとしおひてひとりとしたゆしもしかは
みちのくに出ひとなれる六條川藤とてかるもいとゆ
とよりなれる大将の方へ出蔦をかて渡しそ
きを出藤なりみくるに紅をハかの行たるひ
るへし又くれいわてなるを出髪まつ心ま
小袖を忘もこそとなりるの出のおもうしてはて
わるくるはるいかるしなるのかに細流ま

一

危藤の故事をひきの〳〵ちハけるに
わるもれひき
細立て思ひわてまれる山きもいわるもくれひきいれて
○今梅ハ河もるかい第第第十よるて腰勾れ
なひのとわるわるもたまひきも赤裳下引をわる女
鼠よハれひきとよるるや六作わもちわる
第第同巻よ紅之綿引道手中置而一云須蘇衝
河手第五巻よハ白妙の袖うつけ紅のわるも須
蘇毗伎第六よ末通女等者赤裳須素引第九よ
紅赤裳數十引山藍用摺衣服而第二十よをとる
ハ多麻毛須蘇婢久許乃

わらはなをたまひくとよ[illegible]古歌ハけ[illegible]

一

久[illegible]

○今按續古今よ[illegible]ことゝ[illegible]ことゝ[illegible]

歌をとるしのゝをよ[illegible]同しく[illegible]帖等文

よ[illegible]てくらゝ[illegible]の所なり